



県環境衛生連

第21号

発行日 令和2年3月31日
発行者 富山県環境保健衛生連合会 会長 五十嵐 務

題字 五十嵐 務

第64回 富山県環境保健衛生大会



五十嵐会長挨拶

できることから
はじめよう！

 マイバッグ使用	 地産地消	 車の使用を 控えよう
 電気を 大切に	 分別しよう	 エコマーク商品 を買おう

第64回 富山県環境保健衛生大会
日時 令和元年十月二十六日(土)十三時三十分(急)砺波市砺波文化会館 大ホール
テーマ 環境にやさしく 健康は生活習慣から
環境地球温暖化防止活動に関する児童生徒作品展

最優秀賞：高岡市立五位中学校 3年 二谷 友季子
式典・活動発表
「三代目環境衛生活動モデル事業の実践報告」県連合会事務局
「砺波工業高等学校の地域ボランティア活動」富山県立砺波工業高等学校 生徒会執行部
「ともに支え合い
かなえようみんなの健康」砺波市母子保健推進連絡協議会 砺波市食生活改善推進協議会
砺波市ヘルスボランティア連絡会 砺波市健康センター

主催：富山県環境保健衛生連合会・砺波市環境保健衛生協議会
共催：富山県・砺波市
後援：富山県市長会・富山県町村会・富山県自治会連合会・富山県婦人会・富山県県土美化推進県民会議・(公財)やま環境財団
(公財)富山県健康づくり財団・(公財)花と緑の銀行・(一社)富山県食品衛生協会・富山県食生活改善推進連絡協議会
富山県母子保健推進連絡協議会

大会ポスター



県知事表彰



会長表彰



小中学生 ポスター・壁新聞表彰

第六十四回 富山県環境保健衛生大会開く

「環境にやさしく 健康は生活習慣から」をスローガンに、富山県環境保健衛生大会が令和元年十月二十六日(土)午後一時半より砺波市文化会館に県内各地域から四百名余りの会員等が集まり盛大に開催された。

初めに五十嵐会長から開会の挨拶があり、今年、各地で大きな災害が発生しており、被災地の災害廃棄物の受け入れを進めていかなければならないと思っている。

先日、富山県で「世界で最も美しい湾クラブ」の総会が開催され、訪れた世界の人々が富山の美しさを実感され素晴らしい所だという印象を持ってもらえたと思っっている。

レジ袋の有料化については、富山県では十年前から取り組んでおり、我々の取組みが日本のモデルとして評価されている。

食品ロスの削減問題については、「3015運動」や「サルベージパーティー」を行なうなど、環境先端県「日本一の環境県」を目指してしっかり取り組んでいく。

保健衛生では、健康寿命を伸ばすため「健食」を掲げて取り組み「健康寿命日本一」をしっかりと目指したい。

環境や保健衛生の問題についても唱えるだけでなく、皆さん方を中心に県民の届くところでしっかりした活動を展開していくことが大事である。

今回の大会を契機に「日本一の健康づくり」「日本一の環境県づくり」に皆さんとともに取り組んでいきたい。と述べられた。(要旨)

次に、富山県知事(代理・市村仁志厚生部長)から挨拶があり、続いて地元開催市の砺波市長(代理・齊藤一夫副市長)から歓迎の挨拶があった。

表彰式では、知事表彰(厚生部門功労)で個人三名と一団体が表彰された。

次に会長表彰では個人二十名と八団体が表彰された。地球温暖化防止に関する表彰では、小学生の壁新聞部門で最優秀賞を含む二十一名の児童が、中学生のポスター部門で最優秀を含む二十五名の生徒が表彰された。

受賞者を代表して、砺波市の渡邊千明氏が謝辞を述べられた。

来賓として、富山県議会議長及び砺波市議会議副議長から祝辞が述べられた。

活動発表では、
①「三世代環境衛生活動モデル事業」について、昨年度と今年度、県内の六市町で実施されたモデル事業の紹介がなされた。

富山市(とうぶ ふれあいフェスタ)
高岡市(横田草刈り交流大作戦)

魚津市(三ヶ・町三ヶ・住吉五区海岸清掃活動)
立山町(前沢十一区クリーン作戦)

氷見市(森のいさり火事業)
南砺市(親子わんぱく自然教室)

②「砺波工業高校の地域ボランティア活動」
「ともに支え合いかなえようみんなの健康」についての発表があった。(後述)

続いて砺波市環境保健衛生協議会副会長の齋藤幸恵氏による大会宣言が読み上げられ満場一致で承認された。

最後に、砺波市環境保健衛生協議会長の井上五三男氏から閉会の挨拶があり、第六十四回 富山県環境保健衛生大会の幕が閉じられた。

活動発表1
砺波工業高等学校の地域ボランティア活動

同校生徒会

「誠実・友愛・自立」の校訓を掲げる当校は、工業の基礎的な知識・技術の習得はもちろんのこと、部活

動やボランティア活動などの課外活動を通じて地域を愛し、地域に貢献できる資質の向上に日々取り組んでいる。今回は、地域の関わりの中で以下の活動がスライドを使って発表された。

- ・砺波市陸上競技場での除草
- ・運動部員、文化部員を中心に全校の八割の参加
- ・南部デーサービセンターでの清掃活動
- ・JR東野尻駅の清掃
- ・校舎周りの用水路・側溝清掃
- ・鷹栖地区の一員として参加
- ・おもちゃの病院での活動

家庭から持ち込まれるおもちゃを無料で修理し、ごみを減らすことに貢献していることから、環境大臣表彰の受賞が決まる。

活動発表2

「ともに支え合い かなえよう みんなの健康」
〜大腸がん検診を受けよう〜

砺波市母子保健推進員連絡協議会、砺波市食生活改善推進員協議会、砺波市ヘルスボランティア連合会の三団体では、健康寿命の延伸を目指し様々な活動を通じて、乳幼児から高齢者まで市民の健康を願って自ら学び、地域に広める活動を行っている。

今回、砺波市三団体の活動発表は以下のとおりであった。

- ・母子保健推進員連絡協議会では、虫歯予防の大切さを子供たちに知ってもらうため大型紙芝居を使ってわかりやすく説明している。
- ・食生活改善推進員協議会では、親子クッキングを開いて健康づくりの輪を広げている。
- ・ヘルスボランティア連絡会では、寸劇で増加傾向にある大腸がん検診を受診するよう推奨している。



表彰

○第六十四回 富山県環境保健衛生大会
日時・令和元年十月二十六日(土)

会場・砺波市文化会館大ホール
富山県知事表彰(厚生部門功労)

個人 麦島 紀長 富山県環境保健衛生連合会会長
駒井 義次 高岡市環境保健衛生協会副会長
能村 弘 小矢部市環境保健衛生協議会副会長
団体 高岡市能町校下環境保健衛生協議会

○全国大会表彰
循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰

第六十三回生活と環境全国大会
日時・令和元年十月二十九日(火)

会場・熊本県熊本市
生活環境改善功労者 大西 貞夫(富山県)
藤原 邦仁(富山県)
神島 章二(小矢部市)

三世代環境衛生活動モデル事業

「富山県」とつづ ふれあいフェスタ」

実施団体名 東部校下環境保健衛生連合会
事業の内容

環境・エコ・防災・健康・ふれあいをテーマに、校下団体や学校・各種事業所がそれぞれの持ち味を活かしたコーナーを展開。当日は、三千名を超える参加者が有り、見て・聞いて・学ぶ、体験型の事業として、三世代環境衛生活動の推進をねらいとして実施した。

(1)期日 令和元年十月二十七日(日)
(2)場所 不二越体育館
(3)事業の内容

①参加者・連携団体 東部小学校児童、保護者、実行委員会他各種団体 三千名
②事業の概要 各種コーナーの実施
③参加者の感想・小学生女子



・毎年おばあちゃんと一緒に来ています。いつもいろいろな体験ができて楽しいです。おばあちゃんには健康コーナーで看護師さんに血圧を測ってもらったり演奏を聞いたりするのが楽しいそうです。
(4)事業の成果
児童や幼児が保護者や祖父母の世代と地域でこの事業を支える役員の方と一緒に環境や健康に関するコーナーを体験することで、小さい頃から環境に対する意識が高まり、家族と、地域と一体なった環境保健衛生活動の推進につながっている。

【魚津市 海岸清掃活動】

実施団体名 魚津市環境保健衛生協会
事業の内容

三世代の交流を図り、環境美化意識の向上を目指し、「祖父母、父母、子供」の三世代交流環境活動を通じて、後々の世代に美しい街を引き継ぐことを願って実施した。
(1)期日 第一回 令和元年六月十五日(土)
第二回 令和元年九月二十一日(土)

(2)場所 ミラージュランド周辺海岸
(3)事業の内容

①参加者・連携団体
第一回

- ・魚津市環境保健衛生協会
- ・魚津市職員互助会
- ・三ヶ地区住民
- 参加人数 二百五十名
(子供三十名 大人二百二十名)



第二回

- ・魚津市環境保健衛生協会・三ヶ地区住民
 - ・下中島地区少年教室
 - 参加人数 百五十名(子供二十名 大人百三十名)
- ②事業の概要
三世代で海岸漂着物の収集を行い、美しい富山湾の保全を図る。また第二回では参加者に海岸漂着物についてのレクチャーを行った。

③参加者の感想
・海岸漂着物が県内から出ているものが多いと思っ外だった。外国から流れてきたものが多いと思っ

ていた。
・プラスチックごみへの認識不足が感じられた。
・海岸がきれいになって良かった。
(4)事業の成果
海岸漂着物についてのレクチャーやごみ拾い活動を通じて環境を守ることの重要性を各世代に伝えることができた。若年層の参加が少ないので、この年代にどう訴えていくかが課題である。

令和元年度環境巡視員等研修会(県東部)

「県西部の海岸・河川の漂着ごみ視察研修会」

日時 令和元年九月十八日(水) 十時～十六時
参加人数 四十一名
集合場所 新湊きつときと市場駐車場
テーマ 「美しい富山湾の環境保全を目指して(県西部の海岸・河川の漂着ごみの現状から学ぶ)」

視察コース
①庄川河口
②六渡寺海岸
・射水市環境課 鎧塚課長補佐より説明を受ける
・その後三十分ほどごみ拾い活動
わずかの時間だったが五十袋も収集

(ごみ袋の準備とあと片付けは射水市にご協力頂きました。)
市の鎧塚さんの話では、三日もすればまたたくさんのごみやプラスチックが流れ着くと話しておられました。



- ③高岡市雨晴・松太枝浜海水浴場
- ④小矢部川中流域
・高岡市福岡町 小矢部川土屋橋下「土屋親水公園」
・小矢部市綾子河川公園
- ⑤庄川河川中洲(車中からの視察)
・庄川の河川に横たわっている多くの倒木の状況
・河川の樹木の伐採処理作業の状況

大量の漂着ごみを目の前にして思うことは、これらの処理作業は人の手によって行われている事、不法投棄やポイ捨ては絶対にやめてほしいと願う研修会でした。

環境専門部会報告

第一回

日時 令和元年十月一日(火) 九時半～十六時
 場所 岩瀬浜駐車場に集合し、次の箇所の海岸の漂着ごみの現状を視察した。

参加者 二十一名
 研修会テーマ

「美しい富山湾と河川を目指して」
 県東部の海岸・河川の漂着ごみの現状から学ぶ」

- ①富山市 岩瀬浜
- ②滑川市 ほたるいかミュージアム前の海岸
- ③魚津市 海の駅蟹気楼横の海岸
- ④黒部市 石田浜周辺の海岸
- ⑤入善町 園家山キャンプ場周辺の海岸
- ⑥朝日町 ヒスイ海岸

昨年年度実施した県西部の海岸に比べるときれいな海岸が多かった。魚津市の海岸では、消波ブロックの隙間に沢山の漂着ごみが確認され、撤去には、危険性も伴うことから、今後の課題と思われる。



第二回

日時 十二月十八日(水) 十四時～十六時
 場所 県民会館五〇三号室

参加者 十九名
 研修会テーマ

「食品ロス・食品廃棄物の削減について」
 講師 県農林水産部農産食品課

主事 藤田 亜津子氏

- 食品ロスの現状
- 国と富山県の食品ロス
- 食品ロス削減に向けた取組み
- 国の取組み、県の取組み
- 商習慣の見直しについて
- 食品ロス削減に向けた取組み事例
- 食品ロス等削減に向けて、4Rの取組みを「3R(リデュース・リユース・リサイクル)+R(リスペクト)「食べ物への敬意・感謝の気持ちを大切に」



意見交換

○市町村での食品ロス削減の取組み
 各市町村、校区の取組みを出し合い、情報交換を行った。

健康専門部会報告

第一回

日時 令和元年九月二十七日(金) 十時～十二時半
 場所 日本海ガスシヨールーム prego

参加者 十四名
 研修会テーマ

「県の健康寿命の延伸の課題である減塩と野菜の摂取量に関してその改善を目指す『健食』について研修し、メニューの開発と普及を図る」
 講師 富山県食生活改善推進連絡協議会

会長 勝田 幸子氏

講話 「減塩と野菜をもう一皿で健康寿命の延伸を！」
 調理実習 減塩と野菜を多く使った五品目の料理を作った。

- ①出汁を使っ たけんちん汁
- ②季節野菜の ライスベーパー巻き
- ③菜めし
- ④シヤケのホイル焼き
- ⑤マスカット大福

当日の参加者は男性が多く、不慣れな調理を楽しんだ。そして塩分を控える調理の工夫(素材本来の味を活かす)や塩分をひかえる食べかたの工夫(例えば味噌汁は具だくさんに)等を学び、参加者全員で実食をおこなった。



第二回

日時 十一月十日(日)
 場所 県民会館六〇二号室

参加者 十九名

「三大疾病の予防」に関する講演会



研修会テーマ

「三大疾病の予防」をテーマに

三回シリーズの第一回

講師 金沢大学 許 鳳浩先生

講話 「三大疾病の予防 ①ガン予防」

内容

- ①予防は大事
 - ・ たし算の発想
 - ・ (健康に良いと言われる食材やサブリの摂取)
 - ・ ひき算の発想
 - ②定期健診がかなめ(早期発見のため、備えあれば憂いなし)
 - ③正しい生活習慣は日頃から(食、運動、睡眠等)での対応が大切である。
- その後、参加者の市町村の状況や個人の取り組みなど意見交換を行なった。

編集後記

今年の冬は、暖冬で立春まで平野部に雪が積もることはなかった。偏西風が例年より北に押し上げられていたため、寒気がなかなか南下しなかった。だが、東北・北海道は大雪だった。

昨年は台風十五号、十九号の来襲で、千葉県は風で屋根が損傷し、長野、箱根、東北では洪水の被害で大変だった。

富山県は災害の少ない県だと言う人がいる。立山連峰が地震、風を遮り、台風が能登沖を通り過ぎても、フェーンになるくらいだとか。

だが、跡津川断層や呉羽山断層など、いくつかの活断層が県内にある。いつまた、安政の大地震クラスの地震が起きないとも限らない。また、伊勢湾台風、三八豪雪、五六豪雪など、県内に大きな災害をもたらした。災害は忘れたころにやってくる。心して災害に備えねばならない。

第二十一号をお届けします。皆様の手に届くころは、新型肺炎が収束していることを願うばかりです。(秋元 記)